

政治行政関係のモデルについて

千 草 孝 雄

1 はじめに

行政学において、政治と行政の関係は重要なテーマである。このテーマに関してP.E. MouritzenとJ.H. Svvaraは比較地方自治に関する研究を行うことによって、彼らのモデルを示している¹。この政治と行政の関係に関するモデルは、行政学における方法論と密接な関係をもっている²。このモデルについて詳しく検討することが本稿の目的である。

2 方法論的な基礎

(1) 方法論における前提

MouritzenとSvvaraは彼らの方法論における前提について、次のように論じている。第1に、MouritzenとSvvaraは説明の合理的な類型を扱うという。そして、合理的選択論制度主義について次のようにいう。それは3つの想定の上になっているという。まず、選好は外生的である。次に、アクターは合理的に行動する。そして、彼らは利己的な動機によって動かされている³。MouritzenとSvvaraは次のことを示唆する。地方政府のCEOは、安定、自律、そして、個人的利得を含む広く定義された一組の利益を確保しようとする。第2に、MouritzenとSvvaraは説明の規範的な類型に焦点をあてる。規範的制度主義は次のことを想定する。行動は基本的に自己利益の追求にもとづいているというよりも、制度的、そして、文化的特徴によって形成された前提にもとづいている。行為は適切さの論理によっておしすすめられる。適切さは、特定の政府の規範によってばかりでなく、政府の境界、たとえば、専門職集団としての都市行政官と国民的文化的特徴に関する組織の標準によっても形成される⁴。

次に、MouritzenとSvvaraは合理的選択理論について、次のように述べてい

る。MouritzenとSvaraは合理的選択理論における、官僚制は予算を最大化するという主張を支持しない⁵。その理論は、行政官は予算を増大することによって、より多くの報酬、権力、そして、評判をもとめると論じるが、そのことは、地方政府のCEOにはあてはまらないという。給与は全国的な給与水準によって固定されることがしばしばであり、予算をふやすことで、行政官の長にむくいる政治家はほとんどいない。実際は、その逆である。すなわち、それが予算全体であれ、市長やCEOの地位の予算であれ、CEOの権力は予算の規模に結びつけられていない。むしろそれは、構造にもとづく権限、市長との強力なパートナーシップを生み出すCEOの能力と政策革新におけるCEOの関与にむすびつけられている⁶。

(2) 規範的制度主義の立場

規範的な立場によると、制度は利得を得ようとする努力よりも、行動に影響する適切さの論理をもつ傾向があるということになる。適切な行動は制度の価値を支持し、制度が成功するのを助ける。MouritzenとSvaraは次のように考えている。規範にしたがった行為は民主主義と専門職主義の価値に合致したものであり、単にある個人の利益を守っていくというよりも、他のアクターを支持するようにし、公益をましていくものと考えている。たとえば、国際都市経営協会 (the International City Management Association) は倫理綱領において次のことを確認している。CEOは、責任ある公選職による有効で民主的な地方政府のためになるようにと考える。そして、専門職一般管理は目的の達成に重要である⁷。すなわち、MouritzenとSvaraは規範的制度主義の立場にたっている。

規範的制度主義の考え方によって、ある重要な洞察がえられ、そして、それは合理的選択理論の立場の主張のいくつかに対立する。自律をめざすものとしてだされた、CEOによって達成される重要な仕事は、プログラム、プロセス、そして、パフォーマンスの形成者としてのCEOの方向づけを反映している。行政が社会に対して行う積極的な寄与を評価し、もしも、都市政府を統制するグループから排除されるかもしれないとしても、CEOは社会における弱者の集団の利益を弁護し、それに関与している。CEOは、安定したガバナンスに寄与し、公選職を助けたいと考える。彼らは政治家の目標とエネルギーを行政

組織に結びつけようとし、行政的パフォーマンスの有効性をそこなわないやり方で、それを行おうとする。CEOが大きく関与し影響を与えることはCEOに対する注意をひき、CEOに対する政治的な攻撃を引き起こしやすくするので、非合理的であるかもしれない⁸。

規範的制度主義の立場によると、あらゆる国において、CEOが政策へ関与すること、CEOが無党派性の立場をとること、そして民主主義の理想をCEOが支持するという点について異論がない。地方政府専門職の管理は、様々な国において、個人の価値を形成する制度としてあらわれるように見える。そして、文化、コミュニティ環境、また、個人的特徴を反映して多様性がある。しかし、もし、構造や文化だけが態度と行為を決定するならば違いは大きいのである。共通の特徴は、自己利益と同様、あるいは、それ以上に、公共サービスの規範を反映するように見えるのである⁹。

3 補完性（Complementarity）の理論モデル

補完性の理論モデルについて、MouritzenとSvaraは次のようにいう。CEOの特徴と、地方政府における公選職と主席任命職行政官の相互関係の特徴は政治と行政の補完性のモデルによって、もっともよく理解される¹⁰。それは、かさなりあう役割のモデルの上にたてられ、それを拡張したものである¹¹。補完性のモデルは、公選職と行政官の間に相互依存と相互影響があることをみとめる¹²。そして、公選職と行政官には、彼らの独特の見方と価値にもとづく明確な役割があるということになっているが、しかし、彼らが遂行する機能は必然的にかさなりあう¹³。

規範的モデルとしての補完性は、行政官は政治が優越することを尊重し、公選職に対して応答することの必要性を尊重することを想定するが、また、行政官は公共に対する行政官の責任を理解する。行政官は民主主義の過程を支持し、公選職につくすのと同様に公共に対してつくそうとする。政策の作成者と執行者としての彼らの役割において、行政官は、専門職的な標準にもとづき目標を達成しようとし、公益を増進しようとする。公選職と公共にかかわるときに、行政官は独立しており、正直で、倫理的に訓練されたやり方で行動する¹⁴。

CEOは公選職に対して敬意をもつという証拠はある。CEOは政治的な指示

なしに、政策の検討を始めるべきではないということを多くのCEOが感じている。公選職と行政官の間に相互依存があるのである。CEOは、指導的な政治家がいることを、彼らの成功にとって非常に重要なことであると考えている。慎重さが必要な政治的選択を行うときに行政官は、実務において助言をするし、政策形成過程の進行とともに、彼らがしめる公式的な役割から、公選職が行政官に依存しているということを推論することができる¹⁵。

公選職と行政官が相互に影響を与え合っていることを示す強力な証拠もある。与えている影響の相対的なバランスは異なっているけれども、実際にすべてのCEOが少なくとも中程度の影響を政策形成において与えている。公選職が行政を政治的に監督し、そして、行政官は政策形成に関与するというように、職員はかさなりあう機能をもつ。多くのCEOは、ある管理的決定をするにあたって、公選職が中程度に関与することを受け入れ、そして、政治家は、行政官が好む程度よりも、大きく関与しがちでさえある。CEOは公選職の中心的な機能でもある政策展開に、さらに関与している¹⁶。

より広い相互関係と相互依存とともに、同時にその関係には特性があり、おたがいが協力しあう公選職と行政官は、彼らの独特の見方と価値にもとづいた明確な役割をもち、彼らのしめる公式的な地位とは異なるやり方で行動する。ほとんどすべてのCEOたちは次のように感じている。政治家は政策を設定するべきで、ルーティンに関することがらを定めるべきではない。行政官の領域については、行政官は無党派的であるべきであり、専門にもとづいた勧告をするべきであると信じている。しかしながら、政治家と行政官の役割にはっきりとした区別があるということは、それらが距離をおいた関係をもつということを意味しない。CEOは公選職との間に、緊密な協力があるということがいわれ、公選職と行政官の間の分業関係がはっきりしないということによって影響をうけない。それらの職員とそれぞれが提供する政治的、行政的機能は相互にからみあってはいるが、しかし、それぞれ別の機能である。それぞれは相互に関係をもち、そして、他のものを政治過程の全体を形成するために補う¹⁷。

これらの態度と行為を形成する規範と共存することは、自己利益を考慮し、結果の評価を考慮することによっている。補完性は行政官と政治家が利己的でないことを想定するが、しかし、行政官と政治家が無私であるとも考えない。それは、統制に従うことを主として強調するものではないが、しかし、それら

の重要性を無視するものではない。補完性は、ファイナーの外部的統制に対する強調と、フリードリッヒの行政官にプロフェッショナルな責任にもとづいた彼らの行為に対する内部統制をおこなうことをもとめることを両立させようとする¹⁸。

4 政治行政関係を理解するための一般的な枠組

MouritzenとSvaraは、補完性は一般的に適用可能であるが、CEOとのパートナーシップのすべての類型、すなわち、依存的CEO、相互依存的CEO、独立のCEOのすべてを包括しえないのではないかという反論を予想している¹⁹。相互依存的CEOと補完性が適合することは明らかであり、CEOの多数は相互依存的類型にはいる。そして、MouritzenとSvaraは、どんな種類の関係が補完性と両立し、そして、両立しないかを識別するために、一般的な枠組が、全領域の政治的、行政的關係を理解するために使われうる²⁰。

そして、MouritzenとSvaraは次のようにいう。公選職と行政官の関係には、政治的統制と専門職的な相互依存の相互作用がありうる。統制ということは、指示する能力と監督する能力を含んでいる。独立ということは、政策形成において、専門職的な見方を主張すること、執行において、専門職的な標準を守ることを含む。もしも、マーチとオルセンがとった立場から関係を説明すると、統制と独立の二つの力の相互関係は、どちらかが優越することになるか、2つが均衡することになる。合理的選択主義のことばでいうと、我々は、自己利益にもとづくアクターの外生的価値が働いていると考える。この見方によると関係がどのような性質をもつかを決定するためにだけ、相対的な影響を考えるとということになる。依存的行政官、特に、政治的機関は支配され、独立の行政官は自己統制され、そして、相互依存的行政官は、それぞれの側が他にインパクトを与えるバランスのとれた関係の一部である²¹。

しかしながら、CEOとのパートナーシップのタイプの特徴の分析は、他の要素が作用していることを示した。この研究にだされた証拠は、かさなりあう役割モデル以外のモデルの特徴をもつCEOはほとんどいないということを示している。理論的な期待と経験的な発見の間の矛盾は、おたがいがどのような関係になるかについての異なった考え方をすることによって解決される。職員

は彼らの利益が他のアクターと衝突するときには、それを推進しようとはしない。規範的制度主義的視座によると次のようになるだろう。お互いにもつ価値は、政治家の側が行政官に対する尊敬をすることと行政官の側が責任をおうことである。これらの価値はバランスのとれた関係と制約をうけた関係をもたらす²²。

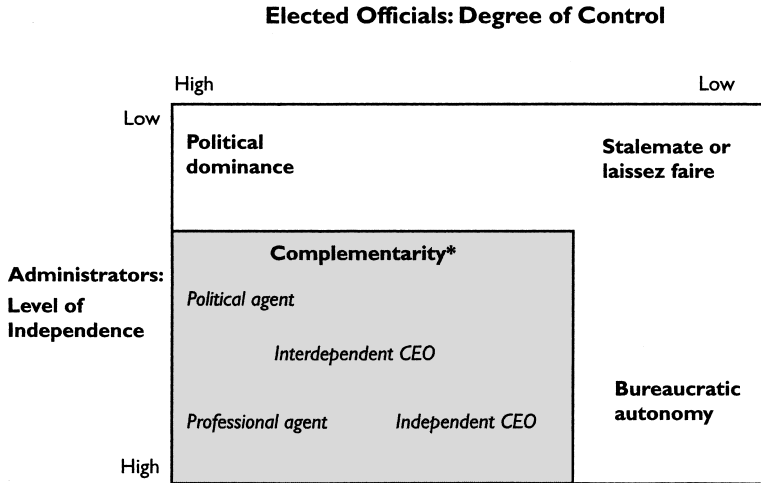
そうして、提案される新しい枠組みにおいて、統制と相互依存の関係は敬意と服従の相互的な価値に関係をもつかもかもしれない。統制がほとんどない時に、行政責任はないし、その逆も真である。行政官に対する政治家の敬意は独立とかかわり、そして、行政官が応答性に関わることは統制に関わる²³。

5 政治行政関係に関するモデル

以上の検討から、MouritzenとSvaraは政治行政関係について、図のようなモデルを提示する。MouritzenとSvaraによると、これらの組み合わせは、それを規定する条件があるならば可能であるということである。高いレベルの政治的統制と行政的独立性が低いことから、政治が優勢になることは、行政的能力が低くなるのではないかということと、潜在的に政治的腐敗がうまれるかもしれないという可能性があることによって、革新主義の時代から現代にいたるまで、改革者によって攻撃されてきた。官僚制に自律性があることは、行政国家の批判者が、行政官が自己統制的であり、公益よりも機関利益をすすめると論じるので恐れられている²⁴。この双方の状況において、相互に重要な価値はない。政治家は行政官を尊敬しないか、あるいは、行政官は応答しようとしなない。可能性としてありうるのは、低いレベルの統制と低いレベルの独立の組み合わせによって、職員の中のそれぞれの態度が生み出されることである。政府が方向性をなくす状況が広がるか、他の職員にインパクトを与える能力が限定されることは、事態がいきづまってしまうという可能性を生むことになる。

ここに示した図においてもっとも大きな領域を占めているのは、補完性の領域である²⁵。すなわち、政治家が中程度から大きな程度の統制を行ない、行政官が中程度から大きな程度の独立性をもつとき、補完性の状況が現れる。両立できないと考えられるこれらの特性は、お互いにもっている価値によって両立できるようになる。公選職は行政官の能力と関与に対する一定の敬意をもって

Figure 10.1 Variations in the interaction between politicians and administrators



* Within this area, officials have reciprocating values. Politicians respect administrative competence and commitment, and administrators are committed to accountability and responsiveness.

Source: Adapted from Svava. Reprinted with permission from the American Society for Public Administration, *Public Administration Review*, March/April 2001.

いる。行政官は、公選職にある程度応答する。すなわち、職員の中の多くの相互の行為は、多くの場合、補完性を反映している²⁶。

CEOとのパートナーシップの類型は、補完性の性質における相違を反映している。政治家が行使する相対的に大きな統制か、行政官が行使する相対的により大きな独立性か、それらの混合であるかどうかを区別することができる。依存的CEOは、彼らもっている独立性の程度によって差別化される。すなわち、政治機関はより少ない独立性をもち、専門職的な機関はより多くの独立性をもつ。しかし、双方のタイプは高度の統制にしたがう。相互依存的なCEOは中程度の独立性をもつが、依存的タイプよりも統制される程度は少ない。独立的CEOは、もっとも高度に独立しており、もっとも統制をうけるこ

とが少ない。ただ、基本的なことは、補完性によって特徴づけられるすべての政府にあてはまる。政府の問題におけるリーダーシップは、政治的リーダーシップと行政的リーダーシップの混合から生ずるのである²⁷。

この図においてだされた枠組は補完性の範囲外にある、他のありうる組み合わせを示している。この研究におけるように標本が非常に大きい場合は、飛び地のタイプが確認されうる。非常に完全に統制されたCEOがいるかもしれないので、そのとき彼らは政治的に圧倒され、そして、彼らの専門職的な標準は脅かされる。しかしながら、これらの明らかに受動的な職員は、その態度と価値において、他の依存的なCEOと区別できない。これらのCEOたちは彼らの専門職的な標準が侵害されている程度と、政治的におかれている程度はことなるようにみえる。これらの依存的なCEOは、彼らがほとんど影響をもたないときでさえ、補完性と合致するのである²⁸。

この飛び地のタイプの検討は、その結論にいたる根拠を強める。実際にすべてのCEOたちのあり方が多様であっても、それは補完性の範囲内にはいつている。これらの境界は、一方において、行政官に対する敬意のある職員による、強いけれども圧倒的ではない統制と、政治家に対する応答性に対する敬意のある行政官による、幅広いが、しかし、制約された独立性を示している。大多数の行政官は、相互作用のこのモデルの範囲の中にある。彼らは、公選職と彼らの関係において相互依存的であり、依存的な傾向もないし、独立的である傾向もない²⁹。

以上のように、補完性は政治家と行政官の間のかさなりあうモデルにもとづいているけれども、それは、他のモデルがもつ特徴をもっている。それぞれを補う二つの要素にとって、それらはその区別を維持しなければならない。したがって分離した役割のモデルの側面は補完性にみいだされる。補完性のきわだった特徴である相互作用があることと共有するものがあることによって政治と行政が融合していることにはならない。CEOは明らかに、政治家は行政問題にたちいらぬことを好み、そして、彼らは自分たちが無党派的であることの重要性を強調する。これらの態度によって、相互作用があることになり、かさなりあう役割が複雑であるということになる。公選職が行政的決定について関わることは行政官の理想像に合致していない。CEOは彼ら自身の感情の面では関係をもたないけれども、CEOによってより有効であると評価される市

長は、行政における細かいことにあまり関与しそうにない。しかし、特定の争点にもっぱら関与するわけではない³⁰。

補完性はまた応答性をともなう。すなわち、行政官は公選職の政策を執行する義務だけでなく、政治家が自らの目標を表明し、達成するのを助けるのに、かかわることがある。政治家は行政官のために応答的であるように指示をあたえなければならないし、そして、行政官はその政治的目標を掲げ続ける方法で、これらの指示を特定するように政治家を助けようとするだろう。CEOは、公益についてのかれら自身の見解をもち、一般的にそれを擁護しがちである。彼らは自分たちの勧告を公選職の政策選好にあったものにするよりも、専門職的な判断にしたがう。彼らは政治家が彼らの目標を表現するにあたって助けるが、彼らは提案する選択肢を考慮する際に、それらにしばられていると感じない。多くのものは、彼らの行動の自由をたかめるかもしれない政府内外の支持者のネットワークを育成しようとする。最後に、彼らは自律的モデルが示唆するように、政策に対する影響を与える。あるものはより多く、あるものはより少なく、しかし、すべてがかれらの決定において少なくとも中程度の影響を与える。しかし、その影響は、専ら、あるいは、主としてCEOの自身の利益をますように使われるわけではなく、相互的に、そして、応答的に使われる³¹。

補完性は政治行政関係のモデルのすべての重要な側面を含む。分離した役割、応答的行政官、そして、自律的な行政官にもとづくモデルは、理論的に可能な性格のまとまりを確認する理想型として有益である。統制と独立の関係と尊敬と服従の程度は、このモデルのすべてと整合的であるCEOの出現につながる条件を生み出すことができる。しかし、職員が、かさなりあう程度において、分離、応答性と自律をもたらす補完的な関係をもつということがもっともありそうである³²。

6 おわりに

Svaraは、市支配人制の研究にもとづいて、分断論を発展させたモデルをかつて示した³³。そして、U.D.I.T.E. リーダーシップ研究に加わり、行政と政治に関するモデルを開発した³⁴。このモデルは、既に示されたモデルよりも、さらに洗練され、汎用性の高いものになっているといえる。すなわち、このモデル

は、市支配人制だけでなく、様々な政府形態の都市の研究にもとづいているからである。そして、このモデルは行政学の他の分野とも関連をもっている。また、U.D.I.T.E. リーダーシップ研究もさらなる研究の可能性をもっているということは、この研究に参加したものの指摘するとおりである。そのような観点からも、この研究はさらに発展していく可能性があるといえる。

註

- 1 この比較地方自治研究については、Poul Erik Mouritzen and James H. Svava, *Leadership at the Apex*, University of Pittsburg Press, 2002. 拙稿「比較地方自治研究序説」駿河台法学 第24巻 第1・2号合併号を参照。
- 2 ここでとりあげる方法論は、行政学、および、その隣接諸科学における様々な研究と関連している。そのような研究については、拙稿「新制度論研究序説」駿河台法学第23巻第1号、拙稿「現代行政学研究の諸潮流」駿河台法学第23巻第2号 James G. March and Johan P. Olsen, *Rediscovering Institution*, Free Press, 1989. を参照。
- 3 Poul Erik Mouritzen and James H. Svava, *op. cit.* pp. 262-263.
- 4 拙稿「現代行政学研究の諸潮流」駿河台法学第23巻第2号, Poul Erik Mouritzen and James H. Svava, *op. cit.* p. 263. CEOについては*ibid.* pp. 54-55.
- 5 William Niskanen, *Bureaucracy and Representative Government*, Aldine. Atherton, 1971. Poul Erik Mouritzen and James H. Svava, *op. cit.* p. 263.
- 6 *ibid.* p. 263.
- 7 *ibid.* pp. 266-277.
- 8 B. Guy Peters, *Institutional Theory in Political Science, The 'New Institutionalism'*. London and New York, 2005. p. 29. Poul Erik Mouritzen and James H. Svava, *op. cit.* p. 267.
- 9 *ibid.* pp. 267-268.
- 10 補完性のモデルについては、拙稿「政治行政分断論に関する再検討」駿河台法学 第22巻第2号、拙稿「比較地方自治研究の展開」駿河台法学第24巻第3号を参照。
- 11 かさなりあう役割のモデルについて、詳しくは、拙稿「比較地方自治研究の展開」駿河台法学第24巻第3号を参照。
- 12 この点については、James H. Svava, *Complementarity of Politics and Administration as a Legitimate Alternative to the Dichotomy Model*, *Administration & Society*, Vol. 30, No. 6, 1999. James H. Svava, *The Myth of the Dichotomy: Complementarity of the Politics and Administration in the Past and Future of Public Administration*, *Public Administration Review*, Vol. 61, No. 2, 2001. Poul Erik Mouritzen and James H. Svava, *op. cit.* p. 270. James H. Svava and James R.

Brunet, Finding and Refining Complementarity in Recent Conceptual Models of Politics and Administration in Mark R. Ratger (ed.), *Retracing Public Administration*, JAI, 2003.

- 13 Poul Erik Mouritzen and James H. Svava, op. cit. p. 270.
- 14 James H. Svava, Complementarity of Politics and Administration as a Legitimate Alternative to the Dichotomy Model, *Administration & Society*, Vol. 30, No. 6, 1999. Poul Erik Mouritzen and James H. Svava, op. cit. p. 270.
- 15 James H. Svava, Complementarity of Politics and Administration as a Legitimate Alternative to the Dichotomy Model, *Administration & Society*, Vol. 30, No. 6, 1999. Poul Erik Mouritzen and James H. Svava, op. cit. p. 271.
- 16 *ibid.* p. 271.
- 17 *ibid.* p. 271.
- 18 Herman Finer, *Administrative Responsibility in Democratic Government*, *Public Administration Review* 1, 1941. Carl J. Friedrich, *Public Policy and the Nature of Administrative Responsibility*, *Public Policy* 1, 1940. Poul Erik Mouritzen and James H. Svava, op. cit. p. 272. この点について、行政責任論との関係については、西尾勝『行政学』（有斐閣2001年）第3章、西尾勝『行政学の基礎概念』（東京大学出版会1990年）第9章を参照。西尾教授は、次のように述べている。「ファイナーは、伝統的な憲法原理である「統制の規範」に忠実に、議会による行政府の行政活動に対する統制の重要性、裏返していえば議会に対する行政府の制度上の答責性（accountability）を確保することの重要性を強調したのに対してフリードリッヒの方は、現代において行政責任の問題が取り立てて論じられなければならないようになったのはそもそも議会による統制が有効に機能しなくなってしまった結果なのであるから、現代の行政機構・行政官に対しては制度上の答責性を要求するだけでは足りず、そのときどきの行動において、コミュニティの民衆感情に直接に対応する責任（responsibility）を自覚することと、客観的に確立された科学的な規準に対応する責任を自覚することを、あわせて要求しなければならないと説いた。」西尾勝『行政学』（有斐閣2001年）34頁。
MouritzenとSvavaは補完性の概念においては、この2つの要求は両立すると主張している。
- 19 依存的CEO, 相互依存的CEO, 独立的CEOの概念については、拙稿「比較地方自治研究の展開」駿河台法学第24巻第3号を参照。
- 20 Poul Erik Mouritzen and James H. Svava, op. cit. p. 272.
- 21 James H. Svava, Complementarity of Politics and Administration as a Legitimate Alternative to the Dichotomy Model, *Administration & Society*, Vol. 30, No. 6, 1999. Poul Erik Mouritzen and James H. Svava op. cit. p. 272.
- 22 James G. March and Johan P. Olsen, *Democratic Governance*, Free Press, 1995. を参照。Pool Erik Mouritzen and James H. Svava, op. cit. p. 273.

- 23 *ibid.* p. 274.
- 24 James H. Svara, *The Myth of the Dichotomy: Complementarity of Politics and Administration in the Past and Future of Public Administration*, *Public Administration Review*, Vol. 61, No. 2. Poul Erik Mouritzen and James H. Svara, *op. cit.* p. 274.
- 25 James H. Svara, *Complementarity of Politics and Administration as a Legitimate Alternative to the Dichotomy Model*, *Administration & Society*, Vol. 30, No. 6, 1999. Poul Erik Mouritzen and James H. Svara, *op. cit.* p. 274.
- 26 James H. Svara, *Complementarity of Politics and Administration as a Legitimate Alternative to the Dichotomy Model*, *Administration & Society*, Vol. 30, No. 6, 1999. Poul Erik Mouritzen and James H. Svara, *op. cit.* pp. 274–275.
- 27 *ibid.* p. 275.
- 28 *ibid.* p. 276.
- 29 James H. Svara and James R. Brunet, *Finding and Refining Complementarity in Recent Conceptual Models of Politics and Administration*, in Mark R. Rutger (ed.), *Retracing Public Administration*, JAI, 2003. Poul Erik Mouritzen and James H. Svara, *op. cit.* pp. 276.
- 30 *ibid.* p. 277.
- 31 James H. Svara, *Complementarity of Politics and Administration as a Legitimate Alternative to the Dichotomy Model*, *Administration & Society*, Vol. 31, No. 6, 1999. Poul Erik Mouritzen and James H. Svara, *op. cit.* pp. 277–278.
- 32 *ibid.* p. 278.
- 33 James H. Svara, *Dichotomy and Duality; Reconceptualizing the Relationship between Policy and Administration in Council-Manager Cities*, in H. George Frederickson (ed.), *Ideal & Practice in Council-Manager Government*, *The International City/County Management Association*, 1995. 拙稿「政治行政分断論に関する再検討」駿河台法学第22卷第2号。
- 34 Kurt Klaudi Klausen and Annick Magnier (eds.), *The Anonymous Leader*, Odense University Press, 1998.